

15年12月現在、既に、約150品目の機能性表示食品が販売されています。健康の維持・増進を考えられている患者さんに、特定保健用食品との違いを説明できるように正しい知識をもっておきましょう。

機能性表示食品のポイント

- ・疾病に罹患していない方を対象にした食品です。
・生鮮食品を含め、原則すべての食品が対象です。
・安全性及び機能性の根拠に関する情報、健康被害の情報収集体制など必要な事項が、商品の販売前に、事業者より消費者庁長官に届け出られます。
・特定保健用食品とは異なり、国が安全性と機能性の審査を行っていません。

《ワクチンの現状》

わが国は他の先進諸国と比べて公的に接種するワクチンの種類が少ない、いわゆるワクチン・ギャップが存在していたため、近年は解決のために予防接種法が頻りに改正されています。医療現場においては「改正されたなんて知らなかった!」では業務に支障を来すため、第99回既出問題のように法改正から1年以内でも出題されます。確実に、定期接種の対象となるA類疾病とB類疾病は覚えておきましょう。

<A類疾病(主に集団予防・重篤な疾患の予防に重点・本人に努力義務あり)>

Hib感染症、肺炎球菌感染症(小児に限る)、ジフテリア、百日せき、破傷風、ポリオ、結核、麻しん、風しん、水痘、日本脳炎、ヒトパピローマウイルス感染症

<B類疾病(主に個人予防に重点・努力義務なし)>

インフルエンザ(高齢者に限る)、肺炎球菌感染症(高齢者に限る)

既出問題

(99回-問129) 小児の髄膜炎による死亡や後遺症を予防することを目的として、平成25年から定期接種が行われることになったワクチンはどれか。2つ選べ。

- 1 不活化ポリオワクチン
2 麻しん・風しん混合ワクチン
3 インフルエンザ菌b型(Hib)ワクチン
4 ヒトパピローマウイルスワクチン
5 小児用肺炎球菌ワクチン

[解答:3,5]

ワクチンのポイント

・14年(平成26年)10月から、A類疾病に水痘が、B類疾病に肺炎球菌感染症(高齢者に限る)が追加されました。第101回の国試対策として覚えておきましょう。

薬理

《出題範囲について》

薬理学は、例年、必須、理論、実践問題と、出題基準に沿って万遍なく出題されています。したがって、ある程度範囲ごとの出題数などを想定しながら問題を解くことが可能です。また、範囲の棲み分けも他の科目よりも分かりやすいです。

例えば、1日目午前、必須問題で循環器系の抗不整脈薬が問われた場合、その同日の午後、理論問題では抗不整脈薬「以外」の心不全・虚血性心疾患、高血圧治療薬が問われる可能性が高いと考えられます。ただし、必須・理論問題と実践問題における範囲の重複は、優先順位の高い範囲であれば見られますので、注意が必要です。

《新傾向薬物について》

薬理学の担当講師として、大学で講義をした際に、学生からよく「今年の新薬は何が問われますか?」と質問を受けますが、私はそれらを新薬とはあえて呼ばず「新傾向薬物・未出題薬物」と呼ぶようにしています。なぜなら、厳密な意味での新薬(新しく発売されたばかりの薬物)が国試に出題されることは、ほぼ皆無であると考えられるからです。

発売されてから一定期間経ち、ある程度医療現場で使用されてきて初めて試験問題として取り上げられます。また、既に発売され医療現場で長年多用されているにもかかわらず出題されていない薬物は、いまだにかなりの数存在します。それら「新傾向薬物・未出題薬物」について、日本国内において売上高の高い薬物を中心に少しずつ問われる傾向が見られます。

また、『薬物名』は出題されていないが、作用機序などの「キーワード」の一部を出題する傾向があるため、2~3年前の既出問題(98~100回)で該当するものについては、今後の国試への『前振り』と捉えて対応が必要かもしれません。

迷っている方々はぜひ、日本国内の【医薬品売上ランキング】上位の薬物を確認してみましょう! 次の出題が見えてきますよ。



室長 村上理



科目責任者 大内邦弘



科目責任者 菅靖昇



科目責任者 尾島良太

《直近の国家試験からの出題予想》

(98回-問155) 催眠薬に関する記述のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

- 1 ゾルピデムは、ベンゾジアゼピンω1受容体を選択性の高い催眠薬で、筋弛緩作用に基づく副作用は少ない。
2 ラメルテオンは、メラトニン受容体を刺激し、睡眠覚醒リズムを調節する。
×3 エスタゾラムは、中枢のヒスタミンH1受容体を遮断し、睡眠を導入する。
4 フェノバルビタールは、抗痙れん作用が現れる用量以下で鎮静・催眠を引き起こす。

(100回-問155) 催眠・鎮静作用を示す薬物に関する記述のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

- 1 フルニトラゼパムは、少量でrapid eye movement(REM)睡眠を強く抑制する。
2 レボプロプラミジン、γ-アミノ酪酸GABA受容体のGABA結合部位に作用する。
○3 ジフェンヒドรามミンは、中枢のヒスタミンH1受容体を遮断する。
4 トリアゾラムは、細胞内へのCl-流入を促進することで、神経の興奮を抑制する。
5 フェノバルビタールは、グルタミン酸NMDA受容体を刺激する。

提示した問題は、98回と100回の催眠薬関連の問題です。98回国試の選択肢3で『H1受容体遮断→睡眠導入』について問い、2年後に100回国試の選択肢3で同様な記載が問われています。通常、催眠薬としてはバルビツール酸系薬とベンゾジアゼピン系薬の機序を問う問題が主流ですが、ここでは中枢内のH1受容体遮断に伴う中枢抑制作用について問われています。しかも、本来は抗アレルギー薬の範囲で問われるジフェンヒドรามミンの中枢抑制作用を問う問題でした。

最近の国家試験で『一般用医薬品』関連の出題が増えてきていることから、次は、ジフェンヒドรามミンを主成分とする睡眠改善剤に関する問題が出てくるかもしれません。

法規・制度・倫理

近年掲げられている「日本再興戦略」の中で、国民の健康寿命の延伸に向けて、セルフメディケーションが注目されています。その中でも重要な役割を果たす医薬品が、一般用医薬品や要指導医薬品です。

第97~99回の国試においても、一般用医薬品に関する出題がありました。この流れから、要指導医薬品も出題される可能性が高いため、第101回国試に向けて要指導医薬品と一般用医薬品(特に第一類医薬品)の規制を区別しておきましょう。

Table with 2 columns: 要指導医薬品, 第一類医薬品. Rows include: 販売担当, 情報提供, 例外1, 例外2, 購入者の確認, 相談対応, 特定販売, 販売記録, 陳列.

(学校法人医学アカデミー 薬学ゼミナール)

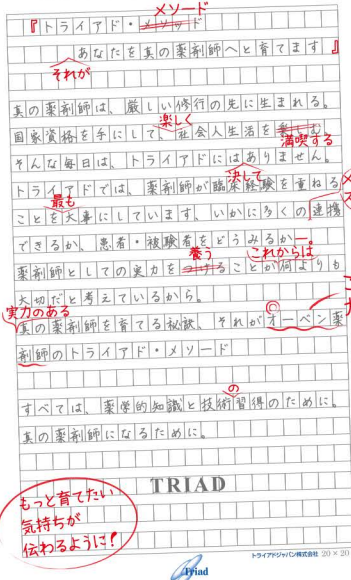
在宅専門の薬剤師が在宅療養を徹底サポート

私たちは、在宅療養を行う患者さんを医療面で全面的にサポートするため、在宅専門の薬剤師制度を設けています。また、2カ所に専門調剤センターを置き、無菌調剤室で注射薬や麻薬にも対応できる体制を整えています。自宅療養の患者さんだけでなく高齢者施設への医師の往診同行を積極的に行い、処方設計や在宅先調剤にも取り組んでいます。こうした活動を通して地域における多職種連携に積極的に参加しています。

医師主導型治験からCRC主導型治験へ

私たちは、医師がすべてを決めて実施する「医師主導型治験」のサポートにとどまらず、CRCが症例をマネジメントし医師に提案しながら進める「CRC主導型治験」という新しい形態を創り、進めています。15年にわたり精神科に特化した臨床経験を蓄積し、社内に医師、薬剤師、看護師などのメディカルスタッフを擁するトライアドだからできる、他に類がない新しい形のCRC業務です。

これがトライアド・メソッド



Triad トライアドジャパン株式会社

トライアド・メソッド 180日なら安心!



自信が ついた!!

インターンシップのお申し込みは

事業管理部 人事総務課 野地、鈴木、岡本
〒252-0303 神奈川県相模原市南区相模大野3-14-20
TEL: 042-741-1117
Mail: jsomu@triad-j.co.jp